

感染性廃棄物容器を正しく使いましょう

感染性廃棄物の処理の現場では、感染性廃棄物容器への廃棄物の詰め過ぎや蓋の脱落等のトラブルが発生しています。また、作業員が、廃棄物の詰め過ぎが原因で容器を突き抜けた注射針を自身の体に刺してしまう事故が発生しています。

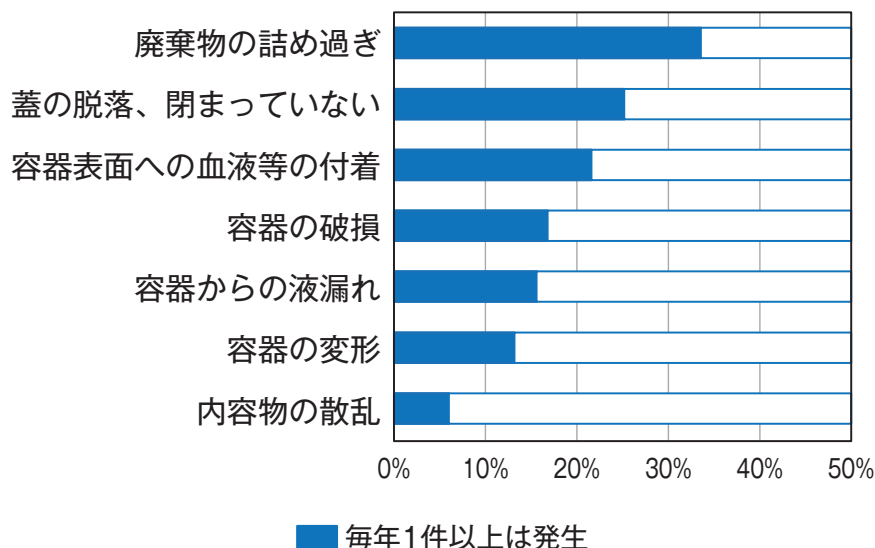


図 感染性廃棄物容器に係るトラブルの種類及び発生頻度

感染性廃棄物容器の取扱い等に関するアンケート調査結果

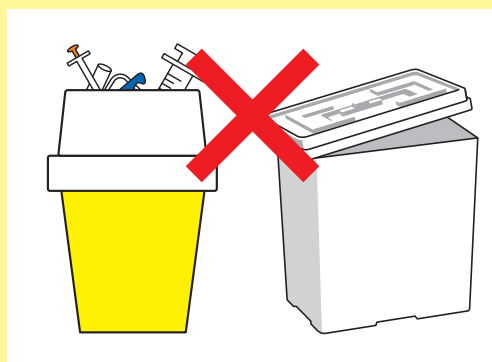
(感染性廃棄物を取り扱う産業廃棄物収集運搬業者・処分業者 83 者の回答、令和 2 年度 JW センター実施)

https://www.jwnet.or.jp/uploads/media/2021/11/R03chousa_youki_ronbun.pdf



廃棄物処理の安全のために感染性廃棄物容器の取扱いにご注意ください

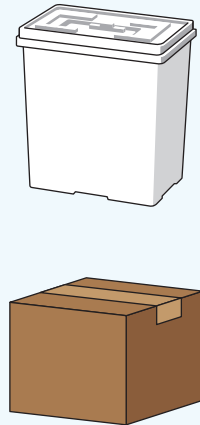
- 容器は、廃棄物の性状、形状に応じた適切な容器を選定する
(容器の選定は裏面参照)
- 容器に廃棄物を詰めすぎない (容器容量の 8 割程度、重さは持ち運びに過度の負担がない程度)
- 容器の蓋を確実に閉める
- 容器表面の血液等による汚れを拭きとる



～感染性廃棄物容器のトラブル・事故防止のために～

適切な容器を選定しましょう！

- 鋭利なもの（注射針、メス等）
 - 耐貫通性のある堅牢な容器
（例：金属製容器、プラスチック製容器）
- 液状又は泥状のもの（血液等）
 - 廃液等が漏洩しない堅牢な密閉容器
（例：プラスチック製容器、段ボール容器（内袋使用））
- 固形状のもの（血液が付着したガーゼ等、鋭利なものを除く）
 - 堅牢な容器
（例：段ボール容器（内袋使用））



容器には表示をしましょう！

「感染性廃棄物処理マニュアル」では、関係者が感染性廃棄物であることを識別できるよう容器にマーク等を付けることとしており、バイオハザードマークの使用を推奨しています。

<バイオハザードマークの色による識別例>

- 鋭利なもの → 黄色
- 液状又は泥状のもの → 赤色
- 固形状のもの → 橙色
- 分別排出が困難なもの → 黄色

バイオハザードマーク



※ 容器の選定、表示については、「感染性廃棄物処理マニュアル」など環境省の資料も参考にしてください。
https://www.env.go.jp/recycle/waste/sp_contr/post_36.html

感染性廃棄物容器評価事業（容器選定の参考情報）

JWセンターは、感染性廃棄物容器の使用で想定される事故に対応した強度試験（耐貫通性試験、落下試験、積重ね試験、転倒試験等）の結果が基準を満たし、かつ、品質管理体制の整備が適切と認められた容器を合格とし、JWセンターホームページに公表しています。

<https://www.jwnet.or.jp/assessment/>

[リーフレット、感染性廃棄物容器評価事業に関するお問い合わせ]

公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター（JWセンター） 調査部

TEL 03-5807-5911(代表) FAX 03-5807-5912 E-mail chousa@jwnet.or.jp